

## ランチタイムレクチャー 「ダイバーシティって、なんだろう？」

ダイバーシティ推進室の新しい試みとして、5月末から6月の毎週木曜日、昼休みの時間に「ランチタイムレクチャー」を開催しました。これは、主に学生のみなさんにダイバーシティについて知ってもらうことを目指したもので、ダイバーシティ推進室の取組みにあわせて、障がいや文化的多様性、セクシュアル・マイノリティ、男女共同参画に関する話題を取り上げました。ダイバーシティ推進室の特任研究員が講師となったミニレクチャーと、参加者同士のグループディスカッションを組み合わせ、ダイバーシティについての理解を深める時間となりました。

障がい者支援スタッフの学生だけでなく、これまでダイバーシティ推進室の存在を知らなかったという学生の参加もあり、ダイバーシティ推進室の周知という面でも、効果を感じることができました。参加した学生からは、「興味のあるテーマにいろいろ触れられて楽しかった。」「ディスカッションで意見の交換や共有ができて、とても楽しめた。」といった感想が寄せられたほか、「もっと話し合う時間が多くてもよいと思います。」という意見や「この1回で終わりにするのではなく、継続してやっていただきたい。」「普段の講義になればいいなと思いました。」という声もあり、関心の高さがうかがえるとともに、引き続き、ダイバーシティの理念を伝えていくことの必要性を実感しました。

- 今回のテーマ
- 第1回 ダイバーシティって、なんだろう？
  - 第2回 障がい学生支援のことを知ろう
  - 第3回 お・も・て・な・しとダイバーシティ
  - 第4回 男女共同参画社会って、なに？
  - 第5回 知っておきたいセクシュアル・マイノリティの基礎知識
  - 第6回 学生が主体になったダイバーシティの実践



## ダイバーシティ推進事業紹介 「あなたの個性が活きる未来へ」

7月16日(日)、8月19日(土)の2日間、首都大学東京南大沢キャンパスの大学説明会が開催されました。ダイバーシティ推進室では、ダイバーシティ推進室の認知度向上と、活動への理解促進を目指し、事業紹介を行いました。ダイバーシティ推進室の取組みの中から、受験生の関心も踏まえて、「障がいのある学生支援」「理系女子のキャリアパス」「セクシュアル・マイノリティの理解」の3点を紹介しました。

「障がいのある学生支援」では、視覚障がい、聴覚障がいそれぞれの学生への支援内容や支援スタッフの活動内容をまとめたパネル展示をはじめ、支援スタッフが作成した南大沢キャンパスの触地図や支援機器類を展示しました。また、視覚障がい学生の講演会を支援スタッフのインタビューを交えて行いました。男女共同参画関連の取組みからは、「理系女子のキャリアパス」として、理工系に進学する女性を増やす取組みの必要性や、本学の理工学系部・研究科の女子学生の進路情報を示したパネルを展示したほか、理工系の職場で働く女性を紹介したDVDを上映しました。さらに、「セクシュアル・マイノリティの理解」として、セクシュアル・マイノリティの基礎知識と、学校生活で当事者が感じている困難とそれに対する支援、ダイバーシティ推進室で行っている取組みの紹介をまとめたパネル展示を行いました。

パネルの作成・準備や当日の来訪者への説明では、支援スタッフ学生が中心となって活躍しました。来場者には、学生が主体となった障がい支援の姿を感じていただける機会になったと思います。来場者のアンケートの中には、「この部屋をたずねて、大学の印象がとてもよくなりました。」といった感想もあり、大学としてダイバーシティの推進に取り組んでいくことの重要性を改めて実感する機会になりました。



## 新任ダイバーシティ推進室長からひと言



ダイバーシティ推進室では、本学の学生、教員、職員等が、国籍・性別・文化・身体的特質・性自認等の相違を互いに認め合い尊重しながら、学問、研究、仕事に取り組める環境づくりを目指しています。出産・育児・介護等のライフイベント期の教育研究支援やワークライフバランス支援、障がい種別に応じた支援スタッフの養成と派遣、キャンパスのバリアフリー推進、多様な国籍を持つ構成員の交流支援など、様々な取組みを行っています。多くの学生が支援に積極的に関与しているのも本学の特徴です。

Diversity and Inclusionの時代に入りつつある現在、大なる多様性「Diversity」がそのままに居られる環境、そして互いの個性を尊重し受容「Inclusion」することが、学問・研究・仕事の充実に結びつき、社会の発展に寄与する人材の輩出に結びつくよう、ダイバーシティ推進室は今後も活動を続けます。推進室の活動の一端を Newsletter で是非ご覧ください。そして今後とも御協力を心よりお願い申し上げます。

首都大学東京ダイバーシティ推進室長 伊藤 史子  
2017年4月就任

## 編集 後記

障がい者支援スタッフは新年度になり登録者も増え、活動も活発になりました。ダイバーシティ推進室への来室やランチタイムレクチャーの参加により、障がいのことだけでなく、他の取組みについても興味をもってもらえているようです。オープンキャンパスでもがんばってくれました。ダイバーシティ推進室にとってなくてはならない存在です。

首都大学東京 ダイバーシティ推進室  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 図書館本館 1階  
電話：042-677-1337 (直通) / 内線 2571 FAX：042-677-1355  
E-Mail：diverwww@tmu.ac.jp  
URL：http://www.comp.tmu.ac.jp/diversity/  
発行日：2017年8月31日

編集・発行

# No.18 August 2017 Newsletter ダイバーシティ通信

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY  
首都大学東京

## ダイバーシティ推進室セミナー

### 視覚障がい学生が歩いたアメリカ

首都大学東京都市教養学部理工学系数理学コース3年の築島瞬さんは、ダイバーシティ推進室の学生支援スタッフとして活動している、視覚障がい学生です。築島さんは2017年2月～3月に首都大学東京の海外短期研修プログラムに参加しました。そこで、築島さんがアメリカで約1か月間過ごす中で体験した、障がい者をとりまく社会的・文化的な相違についての報告と、留学に際してサポートを行った国際課による、サポートの実施状況や見えてきた課題についての報告を行うことで、アメリカ社会における障がい者を取り巻く環境について学ぶことを目指し、6月23日(金)にダイバーシティ推進室セミナー「視覚障がい学生が歩いたアメリカ」を開催しました。



アメリカの文化的環境などについて、自身の体験とユモアを交えて報告が進みました。特に、アメリカでは当事者も周囲の人も、障がいをアイデンティティの一つとして捉える傾向が強いと感じたというお話は、多くの参加者にとって印象深いものであったと思います。また、留学最終日のクロージング・セレモニーにおいては、発表者の一人として築島さんが選ばれ、アメリカでの体験から感じた障がいを持つ人に対する接し方の特徴や社会的インフラについてのプレゼンテーションを行ったそうです。

セミナーの最後では、留学を希望する障がいのある学生に向けたメッセージとして、臆することなく海外に行ってほしいという言葉が送られるとともに、大学職員や保護者に向けても、障がいのある学生の留学支援に積極的になってほしいこと、さらには海外からの障がいのある学生の受入にも前向きに取り組んでほしいことが伝えられました。

最後に上野学長より、築島さんの姿勢に感銘と刺激を受けたとの感想が伝えられ、セミナーは閉会となりました。閉会後は、参加者同士の情報交換や質疑応答の時間だけではできなかった質問が活発に行われました。本セミナーには、複数の大学から障がい学生支援を担当する職員の参加があり、今後の協力やネットワークづくりへの機運も醸成される結果となりました。また、多くの大学に留学を希望する障害のある学生が在学しており、今回の報告会が非常に参考になったとの感想も頂戴しました。



## Contents

- 1 ダイバーシティ推進室セミナー「視覚障がい学生が歩いたアメリカ」
- 2 聴覚障がい学生支援 手話講習会(初級) 寄稿「自分の価値観を深められる活動」
- 3 第1回バリアフリー講習会「アジア諸国の視覚障がい者の状況と日本への留学」 子育ての疑問・悩み相談会「子育てのココが聞きたい!!」
- 4 ランチタイムレクチャー「ダイバーシティってなんだろう」 ダイバーシティ推進事業紹介「あなたの個性が活きる未来へ」 新任ダイバーシティ推進室長からひと言

セミナーでは、まず国際課の佐藤係長より、築島さんの留学に際してのサポートについて、応募の意思表示から研修先の決定、受入態勢の確認及び交渉と、時系列を追って報告が行われました。支援のプロセスを振り返り、アメリカやカナダの大学の障がい学生支援が必ずしもすべての面で進んでいるわけではないこと、海外の大学の様子については、実際に経験した人からの情報が有益であること、「契約社会」のアメリカでも、交渉次第で柔軟な支援が可能になることなどが紹介されました。また、今後の課題として、普段の学生生活の中で、障がいを持つ学生が感じている不便さをより理解することの重要性や、海外渡航時の危機管理の手段の検討、財源や人員の制約をいかに工夫して乗り越えるか、という点が示されました。

続いて、留学を体験した築島さんから、留学を希望した背景と、アメリカでの体験を通じて実感した、障がい者に対する接し方やインフラ整備などの社会的・文化的な相違について報告が行われました。アメリカの歩道に点字ブロックが極めて少ない事やその背景、サポートスタッフとの関係性、障がい者に対して気軽に声をかけて手助けをす

## 聴覚障がい学生支援

**はじめに** 今年度、本学に聴覚障がい学生が入学しました。聴覚障がい学生支援は授業等における情報保障(パソコンノートテイク等)が中心となり、多くの支援スタッフが必要と言われます。初めての組織的な聴覚障がい学生支援を円滑に行うため、支援スタッフ募集と養成活動を集中的に行いました。



**募集と養成** 4月は募集期間と位置づけ、新入生ガイダンスや所属学科オリエンテーションでの告知や支援スタッフ説明会を開催し、多くの学生に告知することが出来ました。5月は養成期間と位置づけ、ノートテイク講習会、パソコンノートテイク講習会を合計8回開催し、延べ50名以上の学生が基本的な知識と技術を身につけました。講師は、東京都立中央ろう学校の牛嶋教諭やダイバーシティ推進室の横山が担当しました。

**支援見学体験** 講習会で一定の知識と技術を身につけた後は、実際に授業の支援見学・体験を行います。先輩支援スタッフの様子を見学し、支援のやり方や授業の雰囲気を感じます。複数回の支援見学・体験を経て、実際に授業における支援を行います。

**多くの支援スタッフの関わり** こうして、4月時点では約10名の支援スタッフで運営していた聴覚障がい学生支援活動ですが、6月になると倍の約20名が関わるようになりました。多くの学生が支援に関わるようになったことで、一人当たりの支援回数が減り、一部の学生に偏っていた負担が軽減されるようになってきました。何よりも「支援集団」が形成され、聴覚障がい学生・支援スタッフが生き生きと学生生活を送っている様子は、支援のあり方を考えさせられるものです。

現在の情報保障の質を維持し、多くの支援スタッフで支援活動が行えるよう、今後も更なる募集と養成を行っていきます。支援スタッフの活動に興味のある方は、お気軽にダイバーシティ推進室を訪ねてください。



## 手話講習会(初級)

**はじめに** 本学の手話講習会は2002年度から開催しており、今年で16年目を迎えます。新たな試みとして今年度から前期に初級クラス、後期に中級クラスを開催し、通年で実施することにしました。聴覚障がい学生が入学したことによる手話習得の意識向上や、手話を継続して学びたいという学生の声に応えてのことです。



**講習内容** 前期の講習会(29名受講)は、実習と座学を組み合わせて手話の仕組みから基本的な単語、簡単な会話表現を学びました。講師からは手の動きとともに「表情」と「口形」が重要であることが繰り返し伝えられました。当初慣れない様子だった受講生も、次第に手を動かすだけでなく、「表情」と「口形」を意識して表現するようになりました。

講習会の最終日には3名の聴覚障がい者の方をお招きし、手話での会話を行いました。受講生は習得した手話を駆使してお互いの趣味や出身地などの会話をし、和やかな雰囲気の中で前期の講習会を終えました。

**後期に向けて** 後期は中級の講習会を開催するとともに、10月の手話検定試験への挑戦も一つの目標にしています。11月には今年で3年目の聴覚障がいに関する総合イベント「Tokyoみみカレッジ」(東京都主催)を本学にて開催します。手話に親しみきっかけを作り、学内に手話を根付かせ、広めていきたいと考えています。共に手話を学んでいきましょう。

**感想** 以下、受講生の感想を紹介します。「手話講習会があるおかげで、手話に触れる機会がみんなに平等に与えられ、とても楽しかったです。これからもこういった活動は続けていただきたいと思います」「とても勉強になりました。ありがとうございました。中級編もぜひ学びたいです」

手話講習会開催にご協力いただいております八王子市聴覚障害者協会の皆様には、改めて感謝申し上げます。



システムデザイン学部システムデザイン学科  
情報通信システムコース1年 山口翔大

私は両耳に先天性の聴覚障がいがあり、授業を受けるにあたってパソコンテイクやノートテイク支援、あるいは映像文字起こし支援などの情報保障を受けさせて頂いています。また、障がいがあっても自分のできることは積極的に取り組みたいと考え、私自身も支援スタッフとして登録をして活動しています。

初めてダイバーシティ推進室にお世話になったのは、昨年のオープンキャンパスでした。充実した情報保障をつけて頂いたことに驚いたのですが、何より聴覚障がい学生が当時、大学に在籍していなかったのにも関わらず、ノートテイク講習会や手話講習会を複数回開いていること、また手話でコミュニケーションをとることのできる学生さんがいるということに強い印象を抱きました。

今では、教職員の方や先輩方のお力添えのおかげで、支援スタッフの登録者数も倍になり、定例会や学生考案の企画でより活発な活動となっており、非常に嬉しく感じています。

まだ入学して間もない私ですが、聴覚に関するだけでなく他の障がいに関することやジェンダーに関する事など、多くのことを日々学んでいます。

支援をする、受けるの関係ではなく、誰もがお互いを尊重して学びあい支えあっている、まさにダイバーシティな環境に所属していることを誇りに思っています。今後とも宜しくお願ひ致します。

「自分の価値観を深められる活動」



## 平成29年度第1回バリアフリー講習会 「アジア諸国の視覚障がい者の状況と日本への留学」

**はじめに** 2017年7月20日(木)南大沢キャンパス図書館本館プレゼンテーションルームにて、平成29年度第1回バリアフリー講習会「アジア諸国の視覚障がい者の状況と日本への留学」を開催しました。講師に長年視覚障がい者の留学受入を行っている社会福祉法人国際視覚障害者援護協会 理事長石渡博明氏と、キルギス出身、弱視で日本に留学している筑波大学附属視覚特別支援学校専攻科のヌルディノフ・アクモール氏をお招きしました。

**視覚障がい者の留学受入について** 国際視覚障害者援護協会は1971年に設立され、アジアを中心に19か国84名の視覚障がい者の留学受入を行ってきました。留学生は、来日後、半年間の日本語、日本点字の学習、歩行訓練、生活訓練を経て入学し、鍼灸、あん摩の国家試験合格などを目標に学びます。

点字には漢字がないため、留学生にとって同音異義語の多い日本語を理解することは難しく、国家試験合格のハードルは高いとされています。しかし、過去に多くの留学生が国家試験に合格し経済的な自立を果たしており、中には大学や大学院進学を目指す方もいます。

**日本での留学経験について** アクモール氏は2014年来日し、来年3月の国家試験を目指して勉学に励んでいます。キルギスの学校には点字教科書の提供がなかったため、授業内容を録音して勉強していたそうです。また、白杖を使うことに躊躇いがあり、外出は家族や友人に頼っていたそうで、日本の点字が整備されている環境が夢のようであったと語ります。

そして、日本では視覚障がい者が街中で白杖を使うことは当たり前

の光景になっており、驚いたと語ります。留学前は躊躇いのあった白杖ですが、現在は無くしてはならないものになりました。

日本での経験を生かして、帰国後は共に日本に留学していた仲間と視覚障がい者の環境改善に取り組みしたいとのことでした。

**質疑応答、感想** 質疑応答も活発に行われ、日本、キルギスそれぞれの視覚障がい者の状況について意見交換が続きました。以下、感想を紹介いたします。「『白杖を持つことは恥ずかしい事だった』というアクモールさんの言葉から、日本と外国の文化の違いを感じた」「障がいを持つ留学生を受け入れる業務を担当するかもしれないので、今日聞いたことを覚えてニーズを聴くことのできる職員になりたい」など。

日本への留学経験により、ご自身の障がいについての捉え方に変化があったというお話が印象深かったです。障がいの有無により将来の夢が閉ざされることの無いよう、門戸を広く開け受け入れられる環境作りを目指します。



## 子育ての疑問・悩み相談会 「子育てのココが聞きたい!!」



ダイバーシティ推進室では、助産師の岡本喜代子先生、長濱博子先生を相談員として、「女性の健康相談」を行っています。7月18日(火)

の昼休みに、相談事業の認知度の向上と、子育て中、またはこれから子育てを行う教職員と相談員の顔合わせを目的として、子育て相談会「子育てのココが聞きたい!!」を開催しました。当日は、岡本先生、長濱先生を講師としてお招きし、和室のくつろいだ雰囲気の中で行われました。親子連れで参加された方もおり、いつものダイバーシティ推進室の講演会などとは少し違った光景が広がっていました。

初めに長濱先生より、母乳育児についてのお話がありました。子どもの免疫力の向上や母体の回復に効果があることや、母子の精神の安定など、メリットと留意点が詳しく紹介されました。また、育児全般にわたる留意点として、パートナーと話し合い、協力し合うことの重要性や、支援が必要ときは一人で抱え込まず、支援を求めるべきことなどが説明されました。

続いて岡本先生より、子どもの脳を中心とした能力開発についてのお話があり、乳幼児期は大脳旧皮質が活きており、さまざまな体験をすることが学びにつながる時期であることや、テレビなどのメディアはその時は見ているようにも学びにはつながりにくいこと、スキンシップの効用などが紹介されました。

その後、フリートーク・相談の時間では、参加者からは「離乳食がそろそろ終わる時期だが、その後の食事はどのような点に気をつけばよいのか」という質問や、「断乳・卒乳の時期とその方法」などについての質問が寄せられ、先生方は専門的な知識と豊富な経験に基づいたアドバイスをされていました。

最後に、ダイバーシティ推進室の相談事業と、岡本先生、長濱先生が運営されているおたふく助産院の紹介を行い、閉会となりました。参加者からは、ダイバーシティ推進室の相談事業を知らなかったという声もあり、今後もこうした機会を積極的に作って事業の周知に努めていく必要性を感じました。

\*おたふく助産院ホームページ <http://otafuku-mw.kids.coocan.jp/>

